５年　　研究経過報告（後期）　　Ｈ．１４．２．２２

学年研修目標　自分との関わりの中から課題を見つけ追求していく子

活動テーマ　食　－自分をとりまく食について考えよう－

１　具体的な活動内容と児童の表れ

（１）課題についての調査やまとめ（１０月・１１月）

今まで自己課題について調べてきたことを、個々にまとめた。画用紙や模造紙を使い図やグラフ、写真や絵などを入れながら書いたり、本や紙芝居などにまとめたりした。

（２）「発表会をしよう」　Ｈ．１３．１１．２７

〈方法〉

学年を大きく３つに分け、交代で発表した。課題が一人一人違うため、一人１パビリオンで発表した。

〈児童の様子〉

・個々に体験したことを写真で説明したり、家で作ってきたものを試食してもらったりするなど、工夫して発表している子が多かった。
・今まで個人でじっくり取り組んできた活動なので、子供なりに充実感を味わえた。
・一人一人が「食」のテーマで調べてきているので、友達の発表も興味深く聞くことができ、積極的に質問したり答えたりする姿も見られた。
・ただの調べ学習で終わらず、たくさんの体験をしている子は、発表も充実したものとなっていた。

・内容が浅く、もっと調べる必要のあるものもあった。
・発表の声が小さすぎたり、資料をそのまま読んでいる子が見られた。

〈今後の課題〉

・一人一人課題が違うため、グループで協力して調べることがなかったため、発表の機会を１回でなく、中間発表をして、相互に情報交換をする機会を設けた方がよかったのではないか。

（３）「そば打ち体験をしよう」　Ｈ．１３．１２．１５

〈方法〉

１１月に収穫した蕎麦の実を粉にして、蕎麦打ちを行った。ゲストティーチャーとして、蕎麦打ち名人の埜田さんや下山さんを迎え、そのほか多くの保護者の方にも協力していただいた。

〈活動の様子〉

埜田さんや下山さんには、主に蕎麦の打ち方を子供たちに指導していただいた。蕎麦打ちは初めての子が多かったが、どの子も自分の蕎麦を自分で作ることができ充実感を味わえたようだ。長さが違ったり、太さもばらばらの不揃いな蕎麦だが、それを食

べる子供の表情はとても満足そうであった。
３０人ほどの保護者の方々が、つゆを作ったり、蕎麦をゆでたり、片づけをしたりするなど、手早く進めてくださった。その様子を子供たちも真剣に見つめていた。

５年部　研修の考察と課題

Ｈ．１４．２．２２

活動テーマ　食　－自分をとりまく食について考えよう－

１　課題作りについて
○身近な「食」というテーマで、個々に課題はつかみやすかったようだ。
○１学期に自己課題を決めて、調べ学習を進めていたので、夏休みを有効に使って体験活動ができた。
○「食べ物」や「食材」に関するテーマが多かったが、単なる食材調べにとどまらず栄養面から深く調べ健康の事を考えたり、国・時代・地方などによる違いまで調べたりする子が多かった。

△ウェビィングから課題をつかませたかったが、もっと多くの体験活動を行い、体験から自己課題をつかませていけば良かったと思う。
△身近なものから課題をつかませかったが、やりたいことがはっきりしないのでなかなか課題が決まらない子や、課題が決まっても漠然としてなかなか取り組めない子がいた。

２　課題解決の取り組みについて
○自分で選んだ身近な課題なので、その子なりに楽しんで調べ、解決の喜びを味わうことができた。
○一人一課題で、個々に調べていったので、人任せにしないで自分から調べていこうとする態度が身に付いた。
○保護者の協力で、多くの体験活動をしながら、充実した追求活動ができた子供も多かった。
○インターネットで調べたり、身近な人に聞いたり、図書館で必要な資料を探したりする力がついた。

△課題が個々に違っていたので、グループで調べたり体験したりすることができなかった。教師の支援にも限界があった。
△一人一課題で、個々に調べていったので、追求活動にはかなりの個人差があった。
△個々に調べていくためには、それまでに段階的に子供たちに力をつけていかなくてはいけないと思った。

３　まとめや発表について
○調べたことをそのまま発表するのではなく、大切なことをおさえて自分の言葉で発表する力がついた。
○図や絵、写真などを使って上手にまとめることができるようになった。

〇学年を大きく三つに分けて発表したので、聞き手も多く発表者も生き生きと発表できた。

△まとめる時間をもう少し時間をかけて行えば、発表方法にももう少し広がりが見られたと思う。

4　今後の課題

・課題作りの前に多くの体験活動が必要だと思う。

（例）・身近に生えている野草で、食べられるものを調べよう。

↓

料理法を調べよう。

・さつまいもを育てよう。→どんな食べ方があるか調べよう。

・課題はある程度絞り込んで、似た課題はグループ化できるようにしないと、教師の支援も難しい。課題を追求していく過程で、行きづまったり、内容に広がりがもてなかったりしたときの支援にも限界がある。

・中間発表するなど、途中の支援や情報交換も必要だと思う。

・年間を通して一つの課題に取り組んでいくという長期の取り組みは、子供の意欲・関心も継続しにくいので、次への課題作りと進めていく必要があった。